

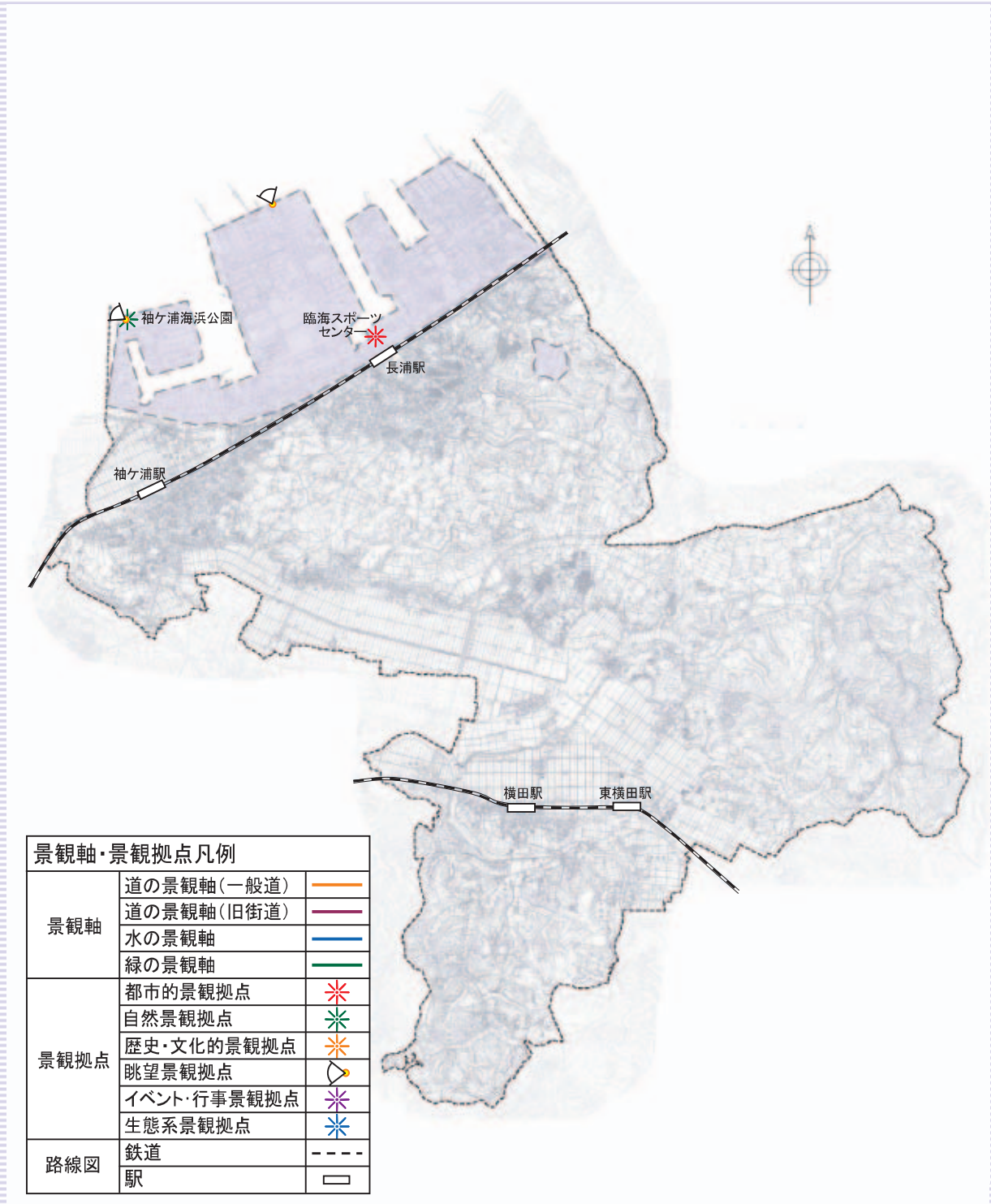
5 工業地エリア

地区の目標

市街地や人々の生活に融合する工業地域の景観を形成し、
親しみある景観まちづくり



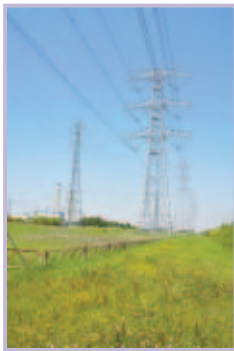
臨海部の埋立て地に形成された工業地域一帯



■ 3. 良好な景観の形成に関する方針 ■

景観の特徴

- 臨海部に形成された工業地域と椎の森工業団地を指定します。煙突等の工場施設、風車、夜に点る工場の灯りなど工場地帯特有の景観となっています。また、東京湾に面した海浜公園からは、富士山や対岸の景色を楽しむことが出来ます。
- 緑豊かな緩衝地帯と工業地帯が調和した、誇るべき景観の一つとなっています。緑地の維持活用による工業地帯の良好な景観形成が必要です。
- 工場や倉庫等の色彩として、無彩色や、黄（Y）系の暖色系を中心に高明度、低彩度の色彩が多く使われています。



景観形成の基本方針

空や海と調和し、眺望に配慮した景観づくり



- 海浜公園、河川、水路などでは、海とのつながりを意識し、建物や水辺環境との一体的な計画とします。
- 市民が海を感じ、富士山や対岸の風景を望める眺望ポイントの環境づくりを進めます。

工業地帯や海を身近に感じる景観づくり



- 施設の入口を、緩衝緑地と調和する親しみやすいデザインとする。
- 周辺への圧迫感を与えない建築物等の配慮、緑化を推進する。
- 緩衝緑地の適切な維持管理により、工業の無機質な印象を緩和させる。

明るく穏やかな色彩を主体とした親しみやすい景観づくり



- 大規模な工場や倉庫等は、明るく穏やかな色彩を基調とし、威圧感の少ないより親しみやすい色彩景観を形成する。
- 工場や倉庫等は、サビや汚れ、経年変化による色あせなどにも配慮し、外壁や屋根等の定期的なメンテナンスを行うなど清潔で親しみやすい景観となるよう努める。

袖ヶ浦の好きな景観は？

※景観まちづくりに関する市民アンケートより

その1.

富士山、東京湾及び対岸の風景

